

介護付き旅行支援サービスを展開

挑む



秋吉社長

あきよし 秋吉 たけとし 壮俊さん(36)

道内初となる介護付き旅行支援サービス「夢たび」を2015年6月から始めた。専門知識と資格を持つ「夢たびヘルパー」が高齢者の旅行に帯同し、体が不自由な高齢者の車いすでの移動や温泉入浴などを介助する。団体旅行やオーダーメイド旅行にも対応可能。今年の夏秋は定山溪温

泉とタイアップし好評を得た。今冬は支笏湖温泉や登別温泉へのプランも打ち出す。不動産賃貸仲介の秋吉（札幌市）と、在宅介護支援を手掛けるテイクケアライフ（同）の社長を兼任する。14年の秋、女性から「温泉に行きたい。でも家族に負担をかけたくな

亡き父の笑顔、顧客に重ね

い」と相談を受けた。要介護者が安心して旅行できるサービスを探したが、道内では限られていた。「無ければつくろう」。夢たびのアイデアが生まれた瞬間だった。

11年前に病気で他界した先代社長の父が、亡くなる半年前に言った。「男同士で旅がしたい」。車いすの父、弟の3人で富山県の立山黒部アルペンルートに出向いた。「ものすごく大変だった」が、今も父の笑顔が心に残る。夢たび利用者と父の姿を重ねる。

秋吉の前身は登別で1907年に開業し94年続いた温泉旅館だ。「自分のルーツは旅行業」。顧客の顔が見える仕事に誇りを持つ。

（安藤健太）